

DTC について、防衛庁および宇宙開発事業団から招聘のあった手紙の控え

DTNCN/DTC の方法の開発者：江崎通彦

1. 1980 (昭和 55 年) 9 月 30 日

防衛庁、防衛システム研究会 (防衛技術担当参事官、番匠敦彦氏) より

この招聘をきっかけとなって、それまで富士重工にプライムが行くと言われていた、新中等練習機の開発のプライムに、川崎重工がに、1981 に選ばれた。

その後の、防衛庁／省の航空機の開発のプライム選定は、川崎重工の技術も良かったと思われるが、OH-1 ヘリコプター、C-2 大型輸送機、P-1 対潜哨戒機の開発のプライム選定に大きく影響をおよぼした。

2. 1985 (昭和 60 年) 5 月 8 日、

H-2 ロケット、その他宇宙機器の開発のデザインツーカーコストにつき、宇宙開発事業団計画管理部長 (村上良雄氏) よりの招聘

これをきっかけとして、H-2 ロケットのコストダウンがすすめられたが、H-2 ロケットの加療さんコストは下がったものの、正規にその開発段階の作業とその段階ごとの審査区分を示したものが作られなかったので、開発途中のエンジンの爆発事故で一人の方がなくなったり、開発予算の先食いが発生した。(このときに出版したのが 1984 の「[デザインツーカーコストの新しい考え方とその手順](#)」です

3. 1987 (昭和 62 年) 6 月 8 日

宇宙開発事業団の統合情報システム (デザインツーカーコストの方法と整合性のある情報システム) のす信をはかるため、上記 2 項で明らかになった考え方とその手順を更に展開するための招聘状。

この結果が、更に、1992 に「[新プロジェクト管理の方法 \(=DTNCN/DTC の方法\)](#)」となり、1999 年には、「岐阜県ソフトピアジャパンの支援をえて「知識を知恵にかえる方法」となり、2011 年には、従来の WBS の方法の問題点を解決する「DTCN 手法による WBS の方法」となり、2012 年には「[知識から知恵を創り出す方法 \(=ウイズダムマネジメントの方法\)](#)」(英語版の要約版) となりました。

5 5 . 9 . 3 0

川崎重工 k k  
東京本社航空機事業本部  
航空機営業本部長  
羽 倉 義 司 殿

防衛システム研究会  
会長 番 匠 敦 彦  
(防衛庁内局技術担当参事官)

防衛システム研究会講演会への  
講師の派遣について (依頼)

時下、ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、防衛庁職員約 400 名で構成している防衛システム研究会では、標記の講師として、貴社 BK 117 開発室 課長 江崎通彦氏を派遣して頂きたいお願い申し上げます。

記

- (1) 日 時 10 月 22 日 (水) 午後
- (2) 場 所 防衛庁本庁大会議室 (6 階)
- (3) 演 題 デザイン トウ コス ト の  
新しい考え方と手順

なお、事務的な詳細の打ち合せについては

防衛大 電気工学教室

教授 佐々木 正文

(電話 0468-41-3810 内線 2266)

とさせていただきます。存じます。

敬 具

航空機部  
江崎部 殿

60 宇計第 77 号

昭和 60 年 5 月 8 日

川崎重工業株式会社

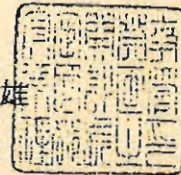
航空機事業本部長

岩 田 正 彦 殿

宇宙開発事業団

計画管理部長

村 上 良 雄



拝啓 時下ますます御精祥のこととお喜び申し上げます。

さて、昨年 9 月から 11 月まで、貴社岐阜工場にて実施していただきました当事業団職員のデザイン・ツー・コスト技法導入のための研修に関しましては、格別の御高配にあずかり厚く御礼申し上げます。当事業団におきましては、その後、研修の成果及び米国での実例の調査等をもとに、社内で検討作業を進めた結果、コストコントロール手法としてデザイン・ツー・コスト技法を導入することとし、現在、諸規則等の整備に着手しており、これを機会に、お礼を申し上げる次第です。

現在の宇宙開発においては、コストが非常に重要な開発目標となっておりますが、この目標を達成するための有効なコストコントロール手法であるデザイン・ツー・コストには、当事業団として大いに期待しているところであります。今後とも、デザイン・ツー・コストの実施に関しましては、我国での大規模な航空機開発プロジェクトへのデザイン・ツー・コスト適用の先達であり、また、その実施に深い経験を有する貴社の御支援を御願いたいと存じます。

敬具

宇宙開発事業団



62計 第120号  
昭和62年6月8日

川崎重工業株式会社  
取締役航空機事業本部長  
園田寛治殿

宇宙開発事業団  
計画管理部長 五代富文



拝啓 時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。  
さて、この度当事業団計画管理部においては、事業団業務の  
情報システム化の計画を推進中であり、現在、当事業団で  
実施しているデザイン・ツー・コスト(DTC)と情報シス  
テムとの機能的な整合性について技術的な実現の可能性を摸  
索中であります。

つきましては、デザイン・ツー・コストの手法とその適用  
に造詣の深い貴社主幹江崎通彦氏に豊富な知識、経験に基づ  
くお話を承りたく、ご多忙中誠に恐縮に存じますが、下記に  
より、ご出講下さいますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 日時 昭和62年6月26日(金)  
13時15分~16時

宇宙開発事業団

2. 対象者 情報システム開発関連  
開発担当職員 10名程度

3. 場所 宇宙開発事業団本社 第3会議室  
東京都港区世界貿易センター・ビル  
21階

本件に関する連絡先  
計画管理部

情報システム推進室 室長 水田 浩  
(03-435-6276)

宇宙開発事業団